

# 外房法友会

法政大学校友会  
外房法友会 会報  
第 18 号

発行所 法政大学校友会 外房法友会  
発行人 古山 弘  
〒299-4415 長生郡睦沢町小滝475番地1  
TEL 0475-44-1869

## 外房法友会 会員の皆様へ

外房法友会会長 古山弘

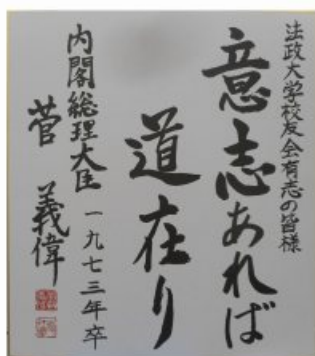
外房法友会会員の皆様、コロナ禍の中いかがお過ごしでしょうか。飲食業、旅行業をはじめ様々な業の方が、厳しい状況に直面しているものと思われまますし、直接営業に打撃は受けないものの、行動の制限があったり、人との接触を控えたりと全ての方が大なり小なりコロナの影響を受けています。私たちの住む外房地域は、東京や千葉といった都会から比べれば少ないものの感染者は出しており、特に高齢者施設でクラスターが発生したりと、決して油断は出来ません。

外房法友会も、昨年度は役員会を除く全ての活動が実施出来ず、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。一日も早く感染が終息し、会員が一同に会する機会が訪れるよう願うところです。今年度の総会も昨年度と同様休止させていただきますが、感染が収まったと判断出来たところで、会員が集まれる機会を設けたいと考えておりますので、今しばらくお待ちいただきたく存じます。

このような中ですが、会報は例年どおり作成しましたのでご覧下さい。また、法政大学のホームページをチェックしていただくと色々な情報が載っていますのでこちらも合わせてご覧いただくと今の大学がどんな状況なのか、今の学生はどんな風に学生生活を過ごしているのか分かります。

会員の皆様にはくれぐれも健康に留意され、再開の際には元気な顔が拝見できる事を楽しみにお待ちしております。

(昭和49年工学部卒)



## 法政初の内閣総理大臣誕生

昨年9月、法政大学出身者として初の内閣総理大臣として菅義偉内閣総理大臣が誕生しました。法政大学校友会はこれを祝して校友から協賛を募り菅総理に「法政大学校友会応援旗」を贈呈しました。菅総理からは、お礼として校友会有志あてに色紙が贈られ、左の写真は協賛者へ届いたその複製品です。

困難な状況の中、国民の先頭に立って戦う菅義偉内閣総理大臣に校友として大きなエールを送ります。

## 目良俊徳氏が瑞宝双光章を受賞

前外房法友会会長の目良俊徳氏が昨年秋に「瑞宝双光章」を受賞されました。お祝いを申し上げたいと存じます。目良俊徳氏は長年にわたり学校教育に尽力され、その功績が認められました。今後のご活躍を祈念申し上げます。



## 芭蕉論（二十）

渡辺光夫

「芭蕉の旅路」

岡田喜秋著。秀作社出版。A五版四二二頁。

二〇〇八年六月初版

紀行文の名人岡田喜秋が芭蕉の人生行路のすべてをその生いたちから調べ、旅の生涯を余すところなく描いた書き下ろし紀行文学。「野ざらし紀行」、「鹿島詣で」、「笈の小文」の旅、「更科紀行」の旅、「奥の細道」。その中で千葉県に直接関係する「鹿島詣で」（茨城県）を取り上げる。

「名月や池をめぐりて夜もすがら」。八月十五夜、芭蕉庵の生け簀の池のほとりから、静かな夜空を見上げている。一晚中見ていたいという気分である。

次の年、本所の定林寺の住職、宗波と、彼より六歳若く独り身で献身的に日常の手伝いをしていた、曾良。二人をつれて鹿島への旅をした。

書き出しは「この秋鹿島の月が見たかった」と動機を述べている。

深川の庵から、小名木川、江戸川まで舟で行き、行徳で下船し、陸路木下街道を布佐まで。木下街道は



八幡から鎌ヶ谷を通過して、広い原に出た。そこは、今は北総鉄道の白井駅があり、神々廻から先は牧草地帯であった。「秋の七草が咲き乱れ鹿の妻恋の声と、放牧された馬が微笑んでいるのが「あわれ」、である」（鹿島詣で、に書いてある。）

布佐から利根川の下流、鹿島まで夜行船へ乗って行った。江戸時代の利根川は河口の銚子から、中流の関宿を経由して、江戸川を下る川筋が陸路よりも楽な運送路として利用されていた。

鹿島の寺で知っている根本寺の仏頂和尚のところに、泊まることにしていた。根本寺の月見は、雨のためだめで、芭蕉は「はるばると、月を見に来たのに、なんたることか、誠に残念だ」と書いている。

仲秋の名月を期待していたのに。和尚は、この時、俳句でなく、一首和歌を詠んでいる。

紀行文の最後に彼の俳句も二句ある。

「月早し梢は雨をもちながら」

「寺に寝てまこと顔なる月見かな」  
見えなかつた月への慕情は、これらの句でしのぶしかない。

（昭和三十二年経済学部卒）

## 第2の教員生活

海老根 秀昭

昭和53年、法政大学経営工学科に入学し、昭和57年3月24日、法政大学の第百回卒業式に出席することができ、4年間の学生生活が終了しました。多くの同級生は、高度成長期にあって、企業へ就職していきました。私は、昭和57年4月から地元夷隅郡（現在のいすみ市）にある大原中学校に数学科の教員として採用され、教員としての生活が始まりました。

そして、平成も終わりとなる平成31年3月31日、37年間の教員生活を終え、この年の5月から令和の時代が始まりました。私にとって、第2の教員生活が始まっており、昨年度は、初任の大原中学校で数学科の講師として、勤務させていただきました。

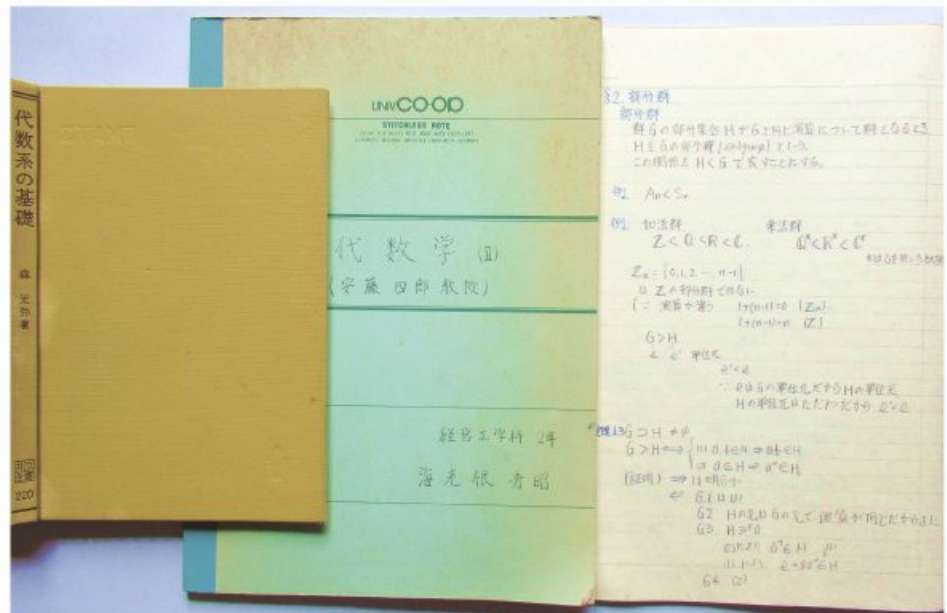
定年退職後も、数学教育を続けていく意志を持たせてくれたのは、やはり、法政大学のおかげです。教員免許を取得するための教職課程の授業は2年生から始まり、5時間目にありました。

工学部ですので、実験後はレポートの提出が義務づけられており、かなりの時間を要したという記憶があります。レポートの提出も気になりましたが、いわゆる放課後の5時間目にある教職課程の単位を取らないと教員になれません。数学科教員免許取得には、教職教養以外に専門教科として、「代数学・解析学(1)・解析学(2)・線形代数・幾何学(1)・数学科教育法」がありました。なかでも代数学は、単位がなかなか取れないという噂があり、4年生で受講している人が何人もいました。これは、噂ではなく本当の事だと真剣な気持ちになったものです。

授業を受けても他の科目と異なり、代数学の抽象的な概念がなかなか理解できず、苦心しました。そこで、難しい内容ならば、アパートに戻ったら最初に勉強する科目にしようと思いがけました。

代数学は、一番時間をかけて勉強しましたが、評定は「B」でした。その時、やはり数学のセンスはないんだと自覚しました。もっとも数学のセンスがあれば、大学の数学科に行っていたかもしれません。しかし、人は、努力して諦めずに続ければ人並みにできるという確信を持つことができました。

学校現場では、数学が苦手な生徒がたくさんいます。私は、数学は、努力すればできるということ。そして、数学の魅力を今後も生徒に伝えていきたいというささやかな思いが、定年退職後も募るばかりです。



(昭和57年3月 工学部卒)

『昭和54年(2年生) 代数学の教科書とノート』

## 寄稿

勝又泰雄

私は静岡県御殿場市で生まれ育ち、県立裾野高等学校を卒業後、大学受験に臨みましたが第一志望の学部には実力が程遠く二度失敗しました。二浪し法政大学に入学することができたわけですが合格した時はとても嬉しく失神寸前でした。亡き父母も大変喜んでくれたのを昨日のように覚えております。

さて大学には何とか受かったものの将来の仕事が想像できずにおりました。父は自身もそうであるように私に公務員になることを強く望んでおりましたが試験を受けてみようとは思いませんでした。まずは鈍った体を鍛えなおそうと剛柔流空手道部に入部しました。子供の頃から動くことは好きで運動部に在籍してましたが大学での武道はかなり異質です。稽古は厳しくかつ真剣でした。ブランクもあり相当気合いを入れないと四年間過ごせないなと痛切に感じました。おそらくその時の話だけでもページ数を超えてしまいそうなので今回は省略します。青春時代の良き思い出です。ひとつだけ、最近の自慢話になってますが10代の先輩に菅総理がおられ、私は19代で同じ副将です。恥ずかしくない後輩にならなければと自分を鼓舞し、何か間違ったことをしてやしないかと自問自答している今日この頃です。

千葉に移住する以前は渋谷で20年ほど金融の仕事をしていました。よく先輩方からお前はこの仕事には向いていない、第一に考えが甘すぎる。ほら、蟻が歩いているぞ!と。何もかも私のこれまでの人生になかったことばかりで環境の違いから心と体を随分と痛めました。何故その仕事を選んでしまったのだろうか?今でこそ「金に仕事をさせる」と言う意味はよく分かります。が、当時は世の中はそんな感じかなと思うぐらいで明確な意識は無かったと思います。ただ資本家が恰好よく見えたのか、金が欲しかったのか、人間の生きざまを知りたかったのか、複雑に絡み合った金や男女の関係 勉強もせず実力も無いのに欲だけ強い煩惱の塊であった己自身 当時のことはあまりにも浅はかで醜く痛ましさもありこれ以上お話するには憚りがあります。ただ明記する事は48歳の時、支配人として債権債務の裁判に出廷した際 日弁連会長で都知事に立候補したかの有名な弁護士 宇都宮健児先生と二回ほど対峙させて頂きました。もちろん勝負は負け戦でしたが先生は私に「勝又さん 貴方だから申し上げるが・・・ これは国策として決定した事項です。高裁での判例で確定しております。あなた方が今やっているグレーゾーン金利での仕事は無くなります。今からでも遅くありません。もう一度人生をやり直すつもりで他の仕事を見つけてください。貴方ならやれます。頑張ってください。」と、諭されました。先生はとても温和な方で、話し方にも愛が溢れておられました。人として立派な方だと実感しました。事実を認識し早急に決断しなければなりません。早速会社に戻り社長やスポンサーに報告しましたが聞いてくれる耳はありませんでした。私は退職し、顧客であった不動産会社に頼み込み、仕事を教えてもらいながら宅建士の資格を取得し不動産業で生きていこうと決めました。

そのような経歴を経て、ここ一宮でサーフィンの魅力を下支えに街が発展する可能性にかけてみようとして不動産会社を52歳で起業致しました。起業するとき最も大切なことはなにか？それは方針、あり方、基になる考え方でした。数日後、『正しい目標を掲げ正しい行動をする』と言う経営方針、生き方の理念を掲げることにしました。（正しいという表現は少し曖昧ですが私が思うところの正しさをご理解下さい。）宇都宮健児先生のお言葉から4年後でした。今こうして仕事ができるのは宇都宮健児先生のお言葉もありましたがその後は何より地元の皆様、周りの方々に助けて頂いたことがいちばんだろうと思います。そして多分に個人的主観ですが「神に助けられた」とも思っています。しかし、いつなんどき何があるか分かりません。少し前の事ですがこの会社発足の思いに反していたことがあり大いに反省したところです。「事の発端は我にあり 全てが我が責任」常に方針理念を忘れずに行動すべきです。油断大敵、慢心は禁物、謙虚に襟を正す、卑怯なことはしない、恩は忘れず、情は考えて、困難からは逃さない、決めたらやり抜く、人としての道理をたがわない。

業務では土地や建物の媒介をしていると開発や土木、建設の仕事を相談される機会も多くなり不動産コンサル、二級土木、二級建築士の資格を得て現在では総合建設業を営むことができます。6月決算の今期売り上げ目標まであともう少しです。ところで現在新しい事業に着手していますが、新規事業について社員の皆さんに相談すると決まって反対する人と問題点を炙り出しクリアにさせ実行しようとする人がいます。そこで「これはよく言われていることですが、会社で最大のリスクはリスクを恐れて何もしないことだ、成功成就の可能性が六割と思うのであれば勇気を持って挑戦しましょう。新しいプロジェクトにチャレンジするには不安は当然つきもの、あとはしっかり準備して、取り組んだら必ず成功させるという情熱だけです。」と、社員の皆さんと自分自身にも叱咤激励し着手しました。実際にやるかどうかです。それにそんなに時間は待ってくれませんし「働けるうち、日が暮れぬうち やっと見つかった己の仕事」です。数字目標を達成するだけでなく方針、理念と品格をしっかりと持ち、世に恥ずかしくない企業を目指します。そしてその暁には心の内で私の母校は法政 よき師よき友から学び 青年日本の代表者 正にそうあるように もう青年ではありませんので急ぎます。

余談ですがささやかな趣味として健康の為に下手なサーフィンとゴルフもできるかぎり続けていきたいと思えます。サーフィンは仕事前の朝のうちに、ゴルフは仕事に支障がない程度に。（弊社は午前8時から午後5時まで、休みは盆と暮正月）酒は嫌いではありませんが菅先輩と同じに弱く学生時代に二度、急性アルコール中毒で当時学校近くにあった警察病院に入院してます。なので水を飲みながら程々にです。

最後になりましたがOB会の末席で不肖な身ながらこのような機会を与えてくださり誠にありがとうございます。再度自分と会社を見つめ直す意味でも、とても良い機会でした。心より感謝申し上げます。

令和3年5月3日 憲法記念日

昭和57年法学部法律学科卒

## 在学4年間の思い出 ～サークル活動で得たもの～

鈴木誠二

この度、ご縁があって「外房法友会」の仲間に加えていただき感謝申し上げます。  
今年2月中旬、ある訃報が届きました。

実は私、在学中に「学団連」(公式に大学を代表して活動するいわゆる体育会とは別の同好会的なサークルの組織)のサッカー部に入って活動していました。「学団連」サッカー部とはいえ、高校時代は国体に参加したとか、県内ではベスト4に入っていたとかいう部員がたくさんいました。でも、体育会に入ってまでサッカーを続ける気はないが、今までとは違う気楽な気持ちでサッカーを楽しみたい、という思いの仲間の集まりでした。近隣の大学のチームで構成する「関東大学サッカー同好会リーグ」(だったと思います。早稲田、中央、明治、国学院等、全部で8チームあったと記憶しています。)に入って活動していました。私は高校からサッカーを始めましたから、部内ではへたくその部類でした。でも前述したような高校時代に輝かしい実績を持っている者も私のようなへたくそも、皆和気あいあいと活動していたので、私にとっては居心地は悪くありませんでした。学団連のそれぞれのサークルの部室があった市谷キャンパスの建物(7階か8階の建物だったと思います)でも先輩や部員たちから、単位の取りやすい講義を教えてもらったり、様々な情報を教えていただいたり、楽しい時間を過ごしました。何より、北は北海道から南は九州(残念ながら沖縄出身の方はいませんでした)まで、日本全国の同年代の若者と時々出てくるお国言葉を交えながらの会話は私にとっては大学の講義よりも何よりも刺激的で、財産になったと思っています。

そんな活動の中で一番深く思い出に残っているのは、「石岡合宿」です。法政大学は茨城県の石岡市に運動施設(「法政大学石岡総合運動場」)を持っていました。芝(草?だったかも)のサッカーコート、野球場、ラグビー場、テニスコート、体育館等がありました。ここでは一年に4回ほど合宿をしました。新入生歓迎合宿、夏合宿、秋のリーグ戦に備えた秋合宿、リーグ戦を終えた後に学年ごとにチームを作って行う部内対抗のカップ戦「石岡カップ」です。それぞれ3、4日から1週間程度に及ぶ場合もありました。最後の晩は決まって打ち上げです。皆、めちゃくちゃ飲みます。施設には鉄筋コンクリート造りの多分一部屋4人くらい泊まれた(入ったことがないので推測です)の宿舎もありましたが、私たちが寝泊まりしたのは昔の木造の小学校の教室みたいな平屋の木造の建物で、部屋の真ん中にコンクリートの通路があり、その両脇が小上がりようになっていて畳が敷かれ、布団が用意されている大部屋です。一棟に20人ほど寝泊まりしていたと思います。いつも2棟使用していましたから、そのうちの1棟が打ち上げ会場になります。宴もたけなわ、皆相当出来上がった頃に2年生の先輩が、「1年生、4年生が呼びだぞ。」と我々1年生に集合をかけます。体育会ほど上下関係は厳しくないとはいえ、上級生ましてや4年生ともなれば「神様」同然です。(実

際はそんなことはありませんでした。)「今からこれをひとり一人一気飲みしてもらおう。」と、我々の目の前で透明なプラスチックカップにこれまた透明な液体をなみなみと2種類のボトルから注ぎ入れます。「先輩、これは何ですか?」と尋ねると「ジンのウォッカ割だ。」と。(何!? 割ってねーじゃん)仰せの通り、一気飲みしましたが、そのあとはご想像にお任せします。

わがチームは結構強くて、私たちにとって最後のシーズン(3年)の時もリーグで優勝しました。優勝した時の祝勝会は、3年生による優勝カップでの日本酒の一気飲みが恒例でした。優勝はうれしかったけれど、この一気飲みは避けたかったセレモニーでした。小さいとはいえ、3~4合は入る大きさの優勝カップでした。祝勝会の前に、3年生だけ事前に神楽坂の喫茶店に集まり、「牛乳を飲むと胃に膜を張るから酔いにくい。」というウワサを信じてアイスマルクを飲んでから祝勝会に参加したほどでした。

このように、私の学生時代は、講義よりも語学のクラスメイトたちとの交流よりも、サークル活動の思い出で埋め尽くされています。冒頭に紹介した訃報は1年先輩のものです。サッカーも上手で我々後輩にもよくしたてくれた男前の先輩でした。そんなに親しくはなかったけれど、卒業以来一度もお会いすることはなかったけれど、「こんなに若くして人は亡くなってしまうんだ・・・」と感じた出来事でした。

今回、寄稿させていただくにあたり、学生時代の思い出がたくさんよみがえってきました。定年退職したタイミングと重なったこともあり、あともう20数年の時間をできることであれば有意義に、やりたいこと(は限られています)をやって人生を閉じることができれば、と思っています。法政大学で過ごした4年間は、私のその後の人生に大きな影響を与えてくれたことは間違いありません。また、こうして地元に戻ってからも、多くの先輩の皆様のお仲間に入れていただけたことに対しても感謝申し上げます。(昭和58年経営学部卒)



## 第44回全国高等学校総合文化祭出場

今井智子

茂原高校マンドリン部は、令和元年11月26日(火)の千葉県高等学校総合文化祭連合音楽会での演奏が認められ、12月12日(木)に千葉県代表として第44回全国高等学校総合文化祭の器楽・管弦楽部門への出場が決まりました。藤掛廣幸作曲の「星空のコンチェルト」を演奏しました。星のきらめきや夜空の広大さが感じられる素敵な曲です。生徒が毎日、一生懸命に練習した努力が報われてよかったです。

新型コロナウイルスの影響で、卒業式や始業式や入学式はありましたが、休校や分散登校となり、令和2年2月28日(金)から6月14日(日)まで部活動が中止となりました。その間、生徒は楽器や楽譜を家に持ち帰り、練習しました。5月12日(火)に全国高等学校文化連盟は総文祭をインターネットを活用して参加者を集めずに開催することを決めました。生徒は心配しながらも現地で演奏することを信じて、ひたすら練習してきたので、高知県で8月1日(土)に演奏ができなくなったことはとても残念でしたが、総文祭が中止にならなくて安心しました。

6月15日(月)から通常登校となり、部活動が再開しました。しばらく合奏をしていませんでしたが、家での練習をきちんとやっていたので、合奏がすぐにできました。素晴らしい生徒です。6月29日(月)には第44回(2020)全国高等学校総合文化祭マンドリン部出場の横断幕が正門に掲示されました。(9月29日(火)からは南門に掲示されました。)7月4日(土)に東部台文化会館で演奏動画を専門業者に頼んで撮影しました。久しぶりの舞台でしたので、撮影時はとても緊張して指揮をしました。生徒はよく演奏ができていました。その後、インターネットにアップして7月31日(金)から視聴できるように準備をしました。7月31日(金)に壮行会が放送で行われました。校長先生からの心温まるお話があり、ありがたく思いました。

7月31日(金)から10月31日(土)まで第44回全国高等学校総合文化祭がインターネット上でWEB SOUBUNとして開催され、多くの皆様に「星空のコンチェルト」を視聴していただくことができ、本当に幸せでした。ねぎらいの言葉をかけていただき、感謝しております。9月30日(水)に全国高等学校文化連盟から文化連盟賞の賞状が届いたので、学校の事務室前に掲示しました。茂原高校の歴史に残る部活動になることができました。10月6日(火)には高知県実行委員会事務局から、2020こうち総文 器楽・管弦楽部門記録集とクリアファイルが届きました。また、令和3年3月1日(月)には千葉県高等学校文化連盟から、2020こうち総文記録集が届きました。生徒にとって一生の記念になると思います。

実は今年度の第45回全国高等学校総合文化祭にも出場することが決まっています。8月に和歌山県で演奏する予定です。新型コロナウイルスの影響が心配ですが、全力で頑張りますので、皆様、応援をよろしくお願いいたします。

(平成元年文学部卒)



## ～良き友～

石井肇

友達、友人とは、もっと緊張感のあるものである、と本で読んだ事がある。確かに、本当の友人関係とは、馴れ合いのものでは無いのだろうと思う。それが大学の友人であれば、尚更なのだろう。

先日、数年ぶりに法政大学体育会陸上競技部の時の同級生とゴルフに出掛けた。1人は都内、もう1人は神奈川県からであり、場所を何処にしようかと3人でLINE（今時は便利ですね）で打合せをした結果、南房総市のコースが土曜日でも安いと神奈川県の友人から提案があり、そこに決定した。

これがなかなかの山岳コースで、カート道は、かなりのデコボコで、危うく谷底に落下しそうになったり（一度では無く何度もなんです）、友人曰く、山の神、谷の神がいるそうで、ゴルフボールを何個も奉納しました…（拍手を打ったのは言うまでも御座いません）

スコアは…（私のスコアは車の運転のスピードオーバーの様な数字です。。。）

その際に、思い出した言葉がある。亡き母が、「大学のお友達は一生だから、勉強、陸上も大事だが、お友達を大事になさい」と言われた事である。私の母は北の大地、北海道砂川市という所の生まれで女学校を卒業し、大学は出ていない。なのに、何故「大学の友人は一生だから」と言う事を分かっていたのか。母は女学校卒業後に、後年、残念ながら倒産してしまったが、北海道拓殖銀行に就職していたから、そこで北海道大学や小樽商科大学などの大卒の方々から、そんな話を聞いていたのかもしれないし、他の場面で聞いた話をしていたのかもしれない。いずれにせよ、その様な言葉を教えてくれた事に心から感謝しているし、それは本当なんだと思う。

外房法友会もそうである。当然に、法政大学の先輩方に友人とは言えないが、これも広義では、法政大学の「友人」と言えるのではないかな、と思う。なぜか？私からすれば、先輩方とお会いするのは、ものすごく緊張感あるんです！

人と人は、生まれてから、保育園や幼稚園の付き合いから始まり、小、中、高校、大学、専門学校、職場、取引先、紹介、趣味や酒場など、様々な場所で出会い、そして友人になるのだろう。その中で、私としては、法政大学の友人を大切にしていきたいと考えている。

(平成8年社会学部卒)



外房法友会平成27年秋季リーグ戦観戦：三嶋投手の力投で優勝した瞬間に立ち合いました。

### ドローン撮影による3キャンパスの空間動画を公開



今、法政大学校友会のホームページには校舎立替工事の完了した「市ヶ谷キャンパス」と「小金井キャンパス」、「多摩キャンパス」をドローンで撮影した動画が公開されています。

昭和の時代に学生生活を送った人にとっては、今の市ヶ谷と小金井は全く別の大学のように感じます。ぜひ一度ご覧下さい。そして、今は消えてしまった懐かしいキャンパスを思い出すのも良いのではないのでしょうか。 動画のURLは

<https://youtu.be/IUmm2EvGC10> です。



### 法政大学全国卒業生の集い栃木大会

下記のとおり開催予定です。コロナ感染が弱まり、開催できるよう願います。

**第28回 法政大学全国卒業生の集い 栃木大会**  
 THE 28th ANNUAL GATHERING OF HOSEI UNIVERSITY GRADUATES  
 法政大学 HOSEI University  
 オリンピック・パラリンピック イヤーに栃木へ

2021年 10/22(土) 記念ゴルフ大会  
 10/23(日) 大会式典・懇親会  
 10/24(月) エクスカーション

法政大学校友会

**秋の栃木**  
 世界遺産や自然豊かな紅葉の観光スポット、情緒あふれる栃木路で本物の出会いを！  
 大会前後も栃木でゆったり！

2021年 10/22(土) 記念ゴルフ大会  
 10/23(日) 大会式典・懇親会  
 10/24(月) エクスカーション